

# 徳島文理大学人間福祉学部設置届出書

学校法人 村崎学園

# 基本計画書

## 基 本 計 画

事 項	記 入 欄	備 考						
計 画 の 区 分	学部を設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者	ガッコウホウシツン ムササカケン 学校法人 村崎学園							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	トクシマブンリダイガク 徳島文理大学(Tokushima Bunri University)							
大 学 本 部 の 位 置	徳島県徳島市寺島本町東1丁目8番地							
大 学 の 目 的	本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 目 的	急速に進展する高齢化社会に必要とされる社会福祉に関する教育の専門性を高め、社会福祉士及び精神保健福祉士の人材養成を充実させる。							
新 設 学 部 等 の 概 要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間福祉学部 (Faculty of Human Welfare)  人間福祉学科 (Department of Human Welfare)  計	年	人	年次 人	人	学士 (社会福祉学)	年 月 第 年次  年 月 第 年次	徳島県徳島市山城町西 浜傍示180番地
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>平成19年度より徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科(40)募集停止</p> <p>平成19年度より徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科編入学定員(5)募集停止</p> <p>平成19年度より徳島文理大学音楽学部音楽学科入学定員減(5)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学総合政策学部総合政策学科入学定員減(20)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学文学部日本文学科入学定員減(10)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学文学部英米言語文化学科入学定員減(10)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学文学部コミュニケーション学科入学定員減(10)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学文学部文化財学科入学定員減(10)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学短期大学部生活科学科生活科学専攻入学定員減(20)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学短期大学部保育科入学定員減(40)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学短期大学部言語コミュニケーション学科入学定員減(20)</p> <p>平成19年度より徳島文理大学短期大学部商科入学定員減(30)</p> <p>その他の変更状況については平成18年6月届出において記載済み</p>							
教 育 課 程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	人間福祉学部 人間福祉学科	講義	演習	実験・実習	計			
		101 科目	11 科目	3 科目	115 科目	124 単位		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文科学関係科目	哲学A	2		2											
	哲学B	3		2											
	倫理学A	2		2											
	倫理学B	3		2											
	文学A	2		2											
	文学B	3		2											
	歴史学A	2		2											
	歴史学B	3		2											
	音楽A	1		2											
	音楽B	2		2											
	美術A	1		2											
	美術B	2		2											
	小計(12科目)	-	0	24	0				0	0	0	0	0	0	
社会科学関係科目	法学A	1		2					1						
	法学B	2		2					1						
	心理学A	2		2					1						
	心理学B	3		2					1						
	社会学A	1		2					1						
	社会学B	2		2					1						
	教育学A	1		2											
	教育学B	2		2											
	地理学A	1		2											
	地理学B	2		2											
	経済学A	1		2											
	経済学B	2		2											
	情報処理	1		2											
小計(13科目)	-	0	26	0				6	0	0	0	0	0		
自然科学関係科目	数学A	1		2											
	数学B	2		2											
	物理学A	1		2											
	物理学B	2		2											
	化学A	1		2											
	化学B	2		2											
	応用生物学A	1		2					1						
	応用生物学B	2		2					1						
	地学A	1		2											
	地学B	2		2											
小計(10科目)	-	0	20	0				2	0	0	0	0	0		
総合科目	総合科目A	3		2											
	総合科目B	3		2											
	総合科目C	4		2											
	総合科目D	4		2											
	総合科目E	4		2											
小計(5科目)	-	0	10	0				0	0	0	0	0	0		
体育・スポーツ科目	体育・スポーツA	1		2											
	体育・スポーツB	1		2											
	小計(2科目)	-	0	4	0				0	0	0	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
一般総合科目	英語A	1		2												
	英語B	1		2												
	英語C	2		2												
	英語D	4		2												
	独語	1		2												
	仏語	1		2												
	伊語	2		2												
	小計(7科目)	-	0	14	0			-	0	0	0	0	0	0		
	基礎ゼミ	基礎ゼミナールA	1	2						1						
		基礎ゼミナールB	3	2							1					
小計(2科目)		-	4	0	0			-	1	1	0	0	0			
基礎領域	社会福祉原論(社会福祉基礎)	1	2							1						
	社会福祉原論(社会福祉行財政)	1		2						1						
	社会保障論(社会保障制度)	2	2							1						
	社会保障論(医療・介護保険制度等)	2		2						1						
	社会福祉発達史	2		2					1							
	社会福祉法制	2		2					1							
	社会福祉概説	1		2					1							
	介護概論	1		2							1					
	情報科学	1		2												
	小計(9科目)	-	4	14	0			-	3	4	1	0	0			
専門教育科目	社会福祉援助技術論 A(援助技法体系)	2		2					1							
	社会福祉援助技術論 B(直接援助技法)	2		2					1							
	社会福祉援助技術論 A(三大援助技法)	3		2					1							
	社会福祉援助技術論 B(間接援助技法)	3		2					1							
	精神保健福祉援助技術各論(精神障害者の生活援助法)	4		2						1						
	精神保健福祉援助技術各論(精神障害者の生活援助の実際)	4		2						1						
	ケアマネジメント論	3		2												
	カウンセリング	3		2					1							
	レクリエーション活動援助法	2		2												
	レクリエーション活動援助法(レクリエーション活動の実際)	3		2												
	社会福祉調査論	3		2												
	社会福祉計画論	4		2												
小計(12科目)	-	0	24	0			-	5	2	0	0	0				
専門分野	児童・家庭福祉論(概論)	2		2					1							
	児童・家庭福祉論(各論)	2		2					1							
	障害者福祉論(概論)	1		2					1							
	障害者福祉論(各論及び相談援助)	1		2					1							
	老人福祉論(概論)	2		2					1							
	老人福祉論(各論及び支援の方法)	2		2												
	地域福祉論	2		2												
	公的扶助論	2		2					1							
	医学一般(人体の構造と機能)	2		2					1							
	医学一般(医療と福祉)	2		2					1							
	精神医学(精神症状と診断)	2		2					1							
	精神医学(精神疾患と治療)	2		2					1							
	精神保健学(予防精神保健学)	3		2					1							
	精神保健学(実践精神保健学)	3		2					1							
	精神科リハビリテーション学(総論)	3		2												
精神科リハビリテーション学(各論)	4		2													

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	精神保健福祉論 (概論)	3		2						1					
	精神保健福祉論 (各論及び援助活動)	3		2						1					
	精神保健福祉論 (精神保健福祉施策)	3		2						1					
	福祉法学	2		2					1						
	医療福祉論	2		2					1						
	家族社会学	2		2					1						
	家族関係学概論	1		2					1						
	家庭経営学概論	2		2					1						
	発達心理学	3		2					1						
	臨床心理学	2		2					1						
	保健福祉論	3		2					1						
	看護原理	2		2					1						
	看護学	1		2							1				
	社会福祉総合研究 (共通科目研究)	4		2					3						
	社会福祉総合研究 (専門科目研究)	4		2					3						
小計(31科目)	-	0	62	0				27	3	1	0	0			
実習・ 演習	社会福祉援助技術演習 (コミュニケーション技法)	3		2				1							
	社会福祉援助技術演習 (様々な援助技法)	3		2				1							
	社会福祉援助技術現場実習	3		4				3							
	社会福祉援助技術現場実習指導	3		2				3							
	精神保健福祉援助演習	3		2				1						1	
	精神保健福祉援助実習	3		4				3	1					1	
	介護技術演習	4		2										1	
	社会福祉系演習	4		2				2		1					
	精神保健福祉系演習	4		2				2	1		1				
	共通科目演習	4		2				4	1						
小計(10科目)	-	0	24	0			20	3	1	0	3				
研究 等	専門ゼミナール	3		2				5	1						
	卒業研究	4		6				5	1						
小計(2科目)	-	0	8	0			10	2	0	0	0				
合計(115科目)		-	8	230	0			74	15	3	0	3			
学位又は称号		学士(社会福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
一般総合科目については、人文系、社会系、自然系、総合科目より14単位以上(ただし、人文系、社会系、自然系はそれぞれ2単位以上を含むこと。)、体育・スポーツ科目2単位以上、外国語科目は「英語」4単位を含め6単位以上、「基礎ゼミナール」4単位、計26単位以上を修得すること。専門教育科目については、98単位以上修得すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	人文科学関係科目	哲学A	<p>人間の思案の原点である古代ギリシア哲学をめぐって、自然・科学・技術などの諸問題を考えることにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソクラテス以前の自然観</li> <li>2. ソクラテス以降の自然観</li> <li>3. プラトン, アリストテレスの技術論</li> <li>4. 科学と技術</li> <li>5. 科学と哲学</li> </ol>	
		哲学B	<p>近代合理主義思潮と近代自然科学の成立をふまえて、自然・科学・技術の今日的諸問題について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代自然科学の胎動</li> <li>2. 近代合理主義思潮 - デカルトをめぐって</li> <li>3. 産業革命と機械工業技術の成立</li> <li>4. 近代自然科学と技術</li> <li>5. 哲学と科学</li> </ol>	
		倫理学A	<p>「人生いかに生きるべきか」という倫理学上の根本的命題と基本概念を概説しつつ、現代社会の倫理・道徳的諸問題について考察する。</p> <p>主として、古代ギリシアの倫理思想を中心として、人間の問題、特に幸福とは、自由とは、正義とは何かについて学説的理解を深める。その導入に当って、わが国の倫理学の歴史的経緯とその変遷を概観し、今日の道徳意識や価値観の変容を確認する。そこで倫理学の原点に返り、現代社会における倫理学の問題意識を喚起させる。これにより人生観・世界観の確立を目指したい。</p>	
		倫理学B	<p>国際化社会を生きる現代の若者にとって、倫理と宗教は極めて重要である。この認識により、基本概念として、文明や文化がそれぞれの民族によって、その本質と価値観に大きな差異がみられる。このため世界の三大宗教を考察しつつ、その宗教のもつ倫理性が人の生き方や生活そのもの、さらには「こころ」・「いのち」・幸福・愛・正邪・善悪などと大きく関わっていることを明確にする。「人間としていかに生きるか」という倫理学の根本が宗教では「信仰」そのものであることを理解し、その現代的意義を探求する。</p>	
		文学A	<p>現代社会における&lt;文学&gt;の意義について考えるとき、江戸時代に展開した&lt;俳諧&gt;の可能性に注目される。それは個人レベルでの作品鑑賞にとどまるものではなく、作品自体が個人と個人とを繋ぐコミュニケーションの手段でありえたのである。</p> <p>俳諧作品の解釈・鑑賞とともに、俳諧史の諸相を見ることから&lt;座の文学&gt;たる俳諧の特質を理解し、現代社会における&lt;文学&gt;、また、&lt;ことば&gt;が果たす役割について認識を深めたい。</p>	
		文学B	<p>日本文学、特に、和歌・連歌・俳諧といった韻文学の伝統は、現代においても日常生活レベルの美意識を形成するものである。花見、月見といった四季折々の楽しみも、文学によって作られ、伝えられたものに他ならない。</p> <p>作品の解釈・鑑賞を通じてこのことを認識するとともに、共通の美意識を共有することの意義、更には、現代社会における&lt;文学&gt;の存在意義についても考えたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	人文科学 関係科目	歴史学A	<p>封建国家から近代国家への発展とその意味を、その典型であるフランス革命を材料として研究する。革命により、自由・平等・財産権など人権を基礎とした近代市民社会が出現するが、そのプロセスは簡単ではなかった。そのシステムやその後のプロセスを研究することで、「近代」の意味を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 封建社会の枠組み</li> <li>2. 革命のプロセス</li> <li>3. ナポレオンの仕事</li> <li>4. 七月革命・二月革命</li> </ol>	
		歴史学B	<p>封建国家から近代国家への発展とその意味を、後発国の典型であるドイツを材料として研究する。後発国ドイツは先進英仏の強い影響下に近代化の道歩んだ。それは英仏とは異なって、後発性とナショナリズムに傾斜していた。ナチスの経験まで連ねて「後発型」について考えてみたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 封建社会の枠組み</li> <li>2. ビスマルクの政治</li> <li>3. 第一次世界大戦と戦後</li> <li>4. ナチスの時代とその後</li> </ol>	
		音楽A	<p>多種多様な音楽が存在し、自由に音・音楽を享受できる、めぐまれた音楽文化状況にある現在、ビデオやテープ、CDなどによって最新の音楽情報を知り、さまざまな世界の音楽に触れて、社会における音楽の役割及び人と音楽との関わりを理解して、豊かな人間性と情操を養う。また、読譜力が楽曲理解と深い関わりをもつことから、その基礎となる音楽理論を学び、音楽に対する興味・関心と曲の構成、国や地域によって異なる音楽の特徴、時代背景などを知り、自己の音楽観を広げる。</p>	
		音楽B	<p>各種の楽曲鑑賞によって培われた音と音楽との関わりや音楽の奥深さを理解するとともに、楽曲理解のための楽譜、曲のアナリーゼ（楽曲分析）や歌唱領域（日本歌曲・世界歌曲）における発声法・歌唱法、器楽領域（音色・演奏法など）の表現方法及び演奏技術を学び、自己レベルで音楽活動を行うための表現力を身につける。また、国際理解や異文化理解の分野における音楽の位置づけ、環境と音楽のつながりなど、生活の中での音楽の果たす役割を知り、生涯にわたって音楽と関わる生き方を身につける。</p>	
		美術A	<p>美術の特長は形と色による視覚的表現であることを理解し、それを楽しむことができる感性と、生活に生かすことができる心情を育てるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 映画ポスターには夢がある 風と共に去りぬ・エデンの東などのポスターの、構成・イラスト・レタリングについて考える。</li> <li>2. 紙芝居盛衰記 街頭の「黄金バット」と学校の「軍神の母」。</li> <li>3. 紙芝居コンクール グループごとに制作し実演する。</li> </ol>	
美術B	<p>美術のすべてを限られた時間で体得することはできないが、小品でも自分の制作に喜びを感じたり、優れた作品や作家に感動しそれを尊重する心を育てたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いろいろな表現方法の理解と制作 紙染め・墨流し・型押しなど。</li> <li>2. 作家と作品 日本の美術（仏教美術・大和絵と絵巻・雪舟の水墨画・北斎と広重・など） 西洋の美術（ルネサンスから現代までの主な作家と作品についての概説）</li> </ol>			

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	社会科学関係科目	法学A	<p>我が国の法制度の根幹をなし、「日本という国のかたち」を定めている日本国憲法の大綱を把握するとともに、憲法的なものの見方と憲法に関わる諸問題への取り組み方の基本を考える。</p> <p>現代国家における憲法の機能を導入部とし、日本国憲法の成立過程、特色、基本原理等を旧憲法と比較しつつ概観したうえで、統治機構及び人権の両領域について、重要な規定の趣旨・内容を学んでいくが、抽象的、観念的憲法論をひかえて、身近な事例を用いながら、できるだけ具体的なアプローチを行うように留意する。</p>	
		法学B	<p>憲法、民法、行政法等の基本的な構造を学び、法律体系の理解を通じて、法律的なものの見方(リーガルマインド)を身につける。</p> <p>各論として、地方自治法、租税法、知的財産法等を題材に、公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法の対比及び各分野での法的争訟システム等を学び、実社会での応用能力を身につける。</p>	
		心理学A	<p>心理学における科学的研究の論理と研究方法の解説を試みるとともに、人格心理領域の基礎知識を取得させることで、客観的な自己理解と対人関係を分析する方法について理解させる。講義面ではとくに、認知面での情報処理過程に関する生物学的基盤を、生理心理学的研究領域からの文献により検討するとともに、臨床研究として問題行動への心理療法を紹介する。さらに社会的判断の歪み形成の研究を検討することで、これと自他の人間関係理解につながる交流分析や論理療法に融合させることにより、実践的な対人関係調整の方策を模索する。</p>	
		心理学B	<p>対人相互作用過程で生起するストレスに対処するために、実用的な人間関係調整の技法を理解させる。この教育目的に沿って、社会心理学的視点に立脚したうえで、心身面の治療としての行動療法の諸原理を紹介するとともに、心理療法全般の概要と共感的理解の問題を取り上げる。さらに、情動的攪乱と情緒解放の行動評価においては、神経生理学や精神生理学からの研究協力が必要とされる現状を、最近の文献情報と計測解析の講義を通じて検討する。</p>	
		社会学A	<p>社会学が研究対象とする最もミクロな領域である「行為」から出発して、最もマクロである社会構造や文化にいたるまでの「社会学の基礎概念」を分かり易く解説し、社会学的思考の基礎を養う。</p> <p>「現代社会」の位相として顕現する人権問題、特に「女性差別とフェミニズム」に焦点を合わせ、具体的事例に則しながら、社会システムの分析に習得した社会学的思考を応用し、社会学的研究方法を体得させることをねらいとする。</p>	
		社会学B	<p>女性・障害者・外国人労働者など「社会的弱者」と呼ばれる人々は、「不正」な格差の結果、その位置に置かれる場合が多い。不正な格差には2つのタイプがある。(1)ルール/制度の適用により生じる格差(2)ルール/制度が適用されないことにより生じる格差</p> <p>正義性からみると社会は正義が実現されている部分(中心)とそうでない部分(周辺)とに分かれる。社会に存在する二重構造-中心・周辺構造-の顕現は、受容された正義理念に照らすことによって可能になる。これらを社会学的視点に立ち、具体的事例あげながら考察する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	社会科学 関係科目	教育学A	<p>教育とは何か、人間とは何かという問いは、いつの時代であっても、古くて新しい問題である。現在、社会的状況は急激に変化しつつあるが、こうした中で教育を通じての新しい人間像を追究することは、今や緊急の課題である。そこで本講では、望ましい人間の育成を、生存の問題（生きること、学ぶこと）、社会的存在の問題（個と集団、共生）、国家的人間の問題（国民共通の人間像）、人類の問題（教育の国際化）、21世紀の人間像、などの視点を中心にして論じつつ、かつ学生と共に考えていく。</p>	
		教育学B	<p>教育には家庭、学校、地域社会の3者の連携が不可欠であるが、しかし各々の人間形成の「場」では、さまざまな問題を抱えている。生きる根拠としての家庭では、少子化に伴う養育態度の変化や虐待の増大、また学校ではいじめ、不登校、校内暴力、怠学、学級崩壊などの諸問題が山積している。さらには子どもから見た地域社会でのおとな一般の倫理観の欠如、教育力の低下といった問題等もある。本講では、これらに関する具体例を踏まえて、諸問題の発生する背景、家庭、学校、地域社会の各々の役割機能とその連携のあり方を考察する。</p>	
		地理学A	<p>地理的諸事象は、自然環境と深い関係を持っている。自然環境と人間活動との間には、一種の法則的な面が存在している。人間は、自然環境に制約されながら自然環境を改変し、改変された自然環境が人間の生命や生活に多大な影響をおよぼしていることについて考察する。授業では、そうした自然環境と人間活動との関わりを中心としながら、「地理的な見方・考え方」を深める。</p>	
		地理学B	<p>地域は、自然的・人文的諸事象から成り立つが、大きな地域の地域事象は複数の異質な地域によって構成されている。これらの分析を通じ、地域の成立要因を究明する。また、一つの地域事象がどのような要因によって現われ、それらがどのように他地域におよんでいるかを考察する。さらに現在の諸地域における地域事象は、歴史的発展の過程において成り立つことについても考察する。</p>	
		経済学A	<p>近代経済学の基礎概念を学習するとともに、経済学的思考方法に馴染んで、現代社会の基本的な経済現象を理解する知的基盤を培うことを目的とする。 講義の内容は、「限界」、「弾力性」、「比較優位」、「リスク」、「外部性」、「国民所得」などの基礎的概念の理解に重点を置きつつ、「需要」、「供給」、「価格決定」のメカニズムの学習にはじまって、「国民所得の決定」、「景気変動」、「経済成長」、「国際貿易」の問題に及ぶ。</p>	
		経済学B	<p>バブル崩壊後の「日本のシステムの変容」と「日本経済の抱える課題」について理解を深めることを目的とする。 講義では、新聞等の記事を素材として取り上げ、労働市場における「雇用改革」の問題、金融市場における「不良債権処理」の問題、公共部門における「行財政改革」の問題など現在の日本が直面する具体的問題について、近代経済学の基礎概念やロジックを使い、高齢化等の社会構造の変化やグローバル化の進展などの環境変化も踏まえながら、考察する。</p>	
		情報処理	<p>コンピュータを用いての情報処理の現在像・未来像を追求し考察を行う。人間とコンピュータの性能の差異を知るところから始め、コンピュータ処理の利用・活用方法、人間とコンピュータの協調態勢のあり方を展望し、入出力、記憶、演算における優れたコンピュータの能力と、人間の総合判断能力を如何に組み合わせるかを具体的なコンピュータ応用の現状を具体例を通じて学習する。学習分野としては、文字加工、映像加工、音加工、通信分野を取り上げ、情報処理の総合的理解を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	自然科学関係科目	数学A	<p>高等学校のカリキュラムに選択制がかなりの範囲で導入されたため、学生の数学の能力にかなりのバラツキが生じているのが現実であり、この傾向は今後ますます強まっていくものと思われる。このような観点にたつて授業内容は高等学校までに学んできた初等関数と大学初年度で学ぶ程度の内容をもちこむ。関数にあつては関数の考え方、基本的性質、グラフによる変化の特徴等の把握の徹底につとめる。初等関数からつづく次の展開としては微分積分法であり、その応用や発展への基礎力を養うように心がける。</p>	
		数学B	<p>多様化した高校課程を修了した学生が十分対応できるよう、すでに学んだ知識で理解でき、さらに、より発展させて数学に対する新しい認識が得られるように心がける。教養としても必要とされるいくつかの内容のうちで、微分積分法、線型代数学を数学A、Bで扱うようにする。数学Bで扱うものは線型代数学の行列、行列式を中心とした基礎的のもので、内容は行列、行列式の計算、連立1次方程式、1次従属、行列の階数および固有値とその応用等を扱う。</p>	
		物理学A	<p>本講義は高等学校で物理を十分に履修しなかった学生が受講することを目的としている。大学での講義は物理学の基礎知識が多少はあることを前提にしているし、卒業後も職場や家庭でその知識が必要とされる。 物理学の基礎として、まず力学を詳しく教える。特に運動の法則とその日常生活への応用に重点を置く。エネルギーの相互変換や衝突現象についても学ぶ。さらに身の回りで目にする熱現象について力学的に考察し、熱運動の本質に迫る。</p>	
		物理学B	<p>まず波についてその一般的な法則を学ぶ。三角関数などの数式は使わず、図や机上実験を使って説明する。具体的な波として地震の波、水の波、音の波と楽器への応用、超音波とその利用、ドップラー効果について学ぶ。また光の波と屈折、全反射とその応用を考察する。次にクーロンの法則などの静電気、オームの法則などの電流、半導体の原理と超電導、磁石と地磁気の成り立ち、発電機と電動機の原理などについて学ぶ。 このように科学的な考え方を身につけることにより、オカルトのような偽科学を排除できる強い心を作る。</p>	
		化学A	<p>自然科学における化学は各分野の学問を学びそれらの分野での専門領域が真に理解でき高度な創造的技術を発揮する基礎となる科目である。現代の豊かな暮らしは科学技術の発達により製産された便利な製品(物質)が利用されている。化学Aは、空気、水など生活における物質を原子、分子のレベルから解説し分子の構造、原子の電子配置、化学結合、物質の性質、酸化と還元、酸化剤と還元剤など物質の現象を化学的視点でとらえる態度を深める。</p>	
		化学B	<p>化学Bは、化学の基礎的な知識をもとに、生命活動の源となる物質"糖質"のエネルギー産生、糖質の化学、生体での酸化・還元など生命の科学への理解を深める。化学の発展によりペニシリンのような複雑な構造の医薬品の合成をはじめ絹に近いナイロンの合成と化学の生活への応用が進んで来た。他方、化学の発展を生活で現在直面しているフロンによるオゾン層の破壊、化石燃料による公害、ダイオキシン、フタル酸など環境ホルモンについて学び人間生活のあり方を考える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般総合科目	応用生物学A	<p>ビッグバンによる宇宙の誕生(150億年前)にはじまり、地球の誕生(46億年前)、生命の誕生(32億年前)と原始大気の還元的環境からオパーリンの生命の起源、ミラーの実験、核酸等(無生物 ウイルス 生物)の化学進化、生物進化の過程を理解する。特にヒトの起源と進化、バイオテクノロジーについて詳述した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 (1)哺乳類の進化と霊長類の出現</li> <li>(2)サル及び類人猿の出現</li> <li>(3)ヒト科の起源</li> <li>(4)ホモサピエンスへの道</li> <li>2 (1)遺伝子組み換え</li> <li>(2)細胞融合</li> <li>(3)クローン羊・牛</li> </ol>	
	応用生物学B	<p>地球上に生息する生物種は250万種をはるかに越えている。そのなかで人間は62億人、今世紀半ばには100億人になると言われている。地球環境は二酸化炭素の増加による温暖化、砂漠化、PCB、ダイオキシン等の環境ホルモン、オゾン層の破壊、酸性雨の問題等で生態系は危機にさらされている。人類が飢餓に苦しむことなく安全な生活ができるよう、生命の尊さ、環境、食料問題、ヒトの遺伝等について考え理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ヒトの特性</li> <li>2 環境を破壊する要因</li> <li>3 遺伝子組み換え作物</li> <li>4 弱くなった現代人のDNA</li> <li>5 生体医薬品</li> <li>6 ガンの予防</li> </ol>	
	地学A	<p>地球誕生以来46億年の歴史の中で、固体地球は種々の自然現象が刻み込まれている。固体地球科学を中心にこの自然現象にどのような法則性があるか、なぜそのような現象が起こるのか、内容は複雑多岐にわたるが主として次の事項のその基礎について論じる。</p> <p>地球の構造、地球を作る物質、火山と地震、火成岩と化成作用、地表と変化、堆積岩と堆積構造、堆積環境変成岩と変成作用、地質構造、古生物とその変遷、徳島の地史、海洋地核の形成とプレートテクトニクス造山運動論の変遷、環境とエネルギー。</p>	
	地学B	<p>最近20～30年間の地球科学の理論の進歩について一例を挙げれば1976年にPlate tectonicsの提唱がある。此で火山活動や造山運動、地震活動等の現象が統一的総合的に理解されるようになった。この理論の発展過程や地球の動的進化の過程などを、次の各事項を通して分かりやすく解説する。地殻の構成物質、地殻の内部、地球内部のエネルギー、物質の循環、地殻表面の現象、地殻の変動、プレートテクトニクスとマントルダイナミックス、活断層と「阪神大震災」、フォッサ・マグナと中央構造線、宇宙における地球・日本列島、地球の歴史、日本の地史。</p>	
総合科目	総合科目A	<p>歴史上の著名な数学者の業績を取り上げ、数学におけるいろいろな課題・問題が生じてきた由来を明らかにし、それらの問題を解決するために、いかなる方法をもって対処してきたかを考察することにより、西洋に端を発した諸科学の基本的な思考形態、すなわち論理的・体系的な考え方が、歴史的にみてどのようにうち立てられてきたか、その概略が会得できるようにする。また、和算の歴史についても述べ、我が国の科学に対する思考形態とも比較する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般総合科目	総合科目B	<p>郷土徳島と緑りの深い文人を取り上げ、興味・関心を喚起する。</p> <p>阿波の異邦人、ポルトガルの文人モラエス。自伝「死線を越えて」ノーベル賞候補にもなった賀川豊彦。ほぼ同時代に生きた異質の2人の作品を取り上げ、当時の社会背景を読み取りながら、郷土とのかかわりや阿波の県民性を探る。更にその県民性が彼等の生き方や作品にどのような影響を与えたのかを究明し、波瀾の生涯を送った2人の生きざまを通して「人間とは」「生きるとは」という核心のテーマに触れる。</p>	
	総合科目C	<p>「現代は変革の時代」といわれるように、社会生活のあらゆる面が急速に変化発展している。そうした世界の現状ならびに動向を時間的・空間的に考察することを通じて、現代社会に関する基本的事項を理解させて、社会生活の諸問題を正しく批判し、建設的に解決しようとする能力・態度が高められるよう授業を展開する。また、さまざまな情報にも対処できるよう、諸資料の科学的・合理的な分析・活用を重視する。</p>	
	総合科目D	<p>本講では、たとえば「少子・高齢化」とか「行政改革と財政再建」といった時事問題を研究テーマとして取り上げる。受講生を幾つかのグループに分け、それぞれのワーキング・チームを作る。そして、資料・情報の収集・分類、次に論点の整理・検討、最後に「研究発表」を各グループで行う。このような一連の作業を通じて、「自ら考える能力」を養い、「プレゼンテーション能力」を高めることを目的とする。</p>	
	総合科目E	<p>総合科目Eは、講演会、特別講義、演奏会やボランティア活動などを受講することにより、修習できる科目である。回数にする原則として、15回であるが、そのうち3分の2以上を受講しなければ、単位は出せないこととされている。評価方法としては、講演会、特別講義、演奏会の場合、感想や意見をレポートさせ、その内容を評価するようにしている。また、ボランティア活動については、その都度、開催されるボランティア活動で、最後に、その責任者が認印を押印することにより、単位を修得できるようになっている。</p>	
体育・スポーツ科目	体育・スポーツA	<p>学生自身が自己の健康及び体力に関する自覚を高め、生涯体育・スポーツや健康に関する基本的知識理解を深め、科学的なスポーツ実践が出来るよう教授する。</p> <p>またチームスポーツ等の実践において、学生の心身の調和的発達を促し、特に情緒の安定や能力的な社会性を育成し、健全な学生生活を可能にすると共に、現代社会の特有の環境から生ずる心身の不調等に対応出来る体力の養成を図る。</p>	
	体育・スポーツB	<p>現代社会におけるスポーツ現象をめぐる事実を提示し、スポーツについてのより深い認識力を養うとともに、文化的価値を理解させる。同時にスポーツの持つ楽しさを体験させることにより、豊で潤いのある生活を営み、生涯を通じより良く生きて行くための糧となるよう、体系的認識及び実践力を育成する。</p> <p>また文化としてのスポーツのかかわりにおいて、多様な人間性・教養を深め、生涯スポーツの推進に指導的役割を果たす人材の育成をめざす。</p>	
外国語科目	英語A	<p>オーディオ・ビデオ教材の活用、短い談話の正確な聞き取り訓練、文型反復練習などによって、基礎的聴解力と口語表現力を身につけ、情報の発信者として英語で自分の意見を表現する能力を養成する。また、英語を読むことで総合的な語学力の向上を図りながら、情報を学際的に取り入れ、現代社会と現代を生きる我々が抱える諸問題に対し関心を向ける。英語はコミュニケーションの道具であるという認識のもと、さまざまな言語活動の場で応用可能な英語力の習得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般総合科目	外国語科目	英語B	<p>リスニングでは、日常生活のさまざまな場面を設定した教材を用い、実際の訓練を行う。リスニングのポイントは、例えば、テープから流れてくる内容を瞬時に判断し、求められている情報をいかに聞き取るかである。</p> <p>リーディングでは、簡単な雑誌や新聞からの記事を用い、内容をすばやく、正確に読みこなすことを目標とする。できる限り辞書を使わないで、それぞれの記事等を読み切る充実感を味わわせ、読解力をつけるだけでなく、英語で書かれたものを楽しんで読む多読の習慣をも身につけさせる。</p>	
		英語C	<p>英語を総合的に学習しながら、英語を使用する人々の文化を学び、コミュニケーション能力を養う。</p> <p>日常生活のさまざまな場面を想定した教材を用い、話される英語の要点を聞き取る。また、パラグラフリーディングを行うことにより、全てを日本語に訳すのではなく、内容の理解や要点把握を行う。</p> <p>さらに、練習問題等を通して、発信型コミュニケーションの基礎を身につける。</p>	
		英語D	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文購読を通じて、文章の大意をつかむ力を養成するとともに、速読速解の力を養う。</li> <li>2. 英文を購読しながら、英語の構造(文法)、単語、熟語、発音についても学習して、基礎学力を固める。</li> <li>3. 英文の中身について十分理解させるとともに、常識や知識を深めることの大切さを理解させる。</li> <li>4. 様々なテーマを扱った英文を購読し、英語文化等にも触れ、国際的感覚を身に付けさせる。</li> <li>5. 学生の活動に重点を置き、英語活用能力を養う。</li> </ol>	
		独語	<p>印欧語に属する英・独・仏語等の相関、特に既習の英語との関連に重点を置いて説明し、ドイツ語の修得のみならず、英語の基本の再確認にも役立つ。</p> <p>授業は次の2点を特に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正確な発音・リズムで話し読む練習は学習の基礎であるが、ドイツ語の豊かな音楽性の体験をも期待する。</li> <li>2. 「ドイツ語は難しい」という誤解のもとになっている語尾変化等の合理性を理解させ、文肢・文節の論理的な関係に注目することで情報処理の基礎訓練ともする。</li> </ol>	
		仏語	<p>「文法を中心とした理解と音読の積み重ねを通してフランス語をマスターする」という方法で目的に到達すべく文法上の基礎的な知識がはっきりと確実に理解され、修得された知識が有機的な連繫を保ちながら大きな知識の流れになってゆくよう、要所要所でそれらをまとめ、一目で全体が見渡せるようにし、すばらしい動詞活用ハンドブックの併用で音読により動詞の活用をマスターしながら学習の実をあげる。</p>	
		伊語	<p>イタリア語の基礎を学び、正確な発音とイントネーションを徹底して学習する。幅広くイタリア文化にふれ、西洋音楽を学ぶための一助とする。その為に、文法を理解し会話練習を通じて、読解力・表現力を養う。さらにイタリア古典歌曲及び現代歌曲、オペラの台本等について研究する。また、イタリア旅行あるいは留学生活で実際に会うさまざまな場面を想定して作られたテキストも併用し、いつのまにか自然なイタリア語が身につくよう授業を進めて行く。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般総合科目	基礎ゼミナールA	この授業は、福祉関係の専門的な授業の基礎として位置づけられ、福祉の対象となる児童、高齢者、障害者についてその基本的な知識を授けることを目的とする。児童のうち児童福祉の対象となる児童等とは、高齢者のうち高齢者福祉の対象となる高齢者とは、障害児・者のうち内部障害を含む身体障害児・者、精神障害者とは、それぞれどのような状態にあるのかその心理的特性等を明らかにする。そして、それぞれの人数や生活の場や処遇やサービス、及び問題や課題についても学習させる。	
	基礎ゼミナールB	この授業は、今まで学習した内容を実地で確認したり、新しい課題を発見することを目的とする。そのため、学生を、児童福祉施設、障害者福祉施設、高齢者福祉施設の3班に分け、更に班ごとに2～3人で小班を編成し、それぞれに施設種別を特定させる。施設種別ごとに適切な課題を持たせ、調査内容・方法を立案させ、計画に基づいた調査をさせる。なお、実地調査を行う場合に備え、対人関係や態度等についての十分な配慮事項も作成させる。調査終了後、それぞれの調査内容を互いに発表しあい、共通の財産とする。	
専門教育科目	社会福祉原論 (社会福祉基礎)	社会福祉は社会保障の一環として位置付けられるが、今日では独自の政策体系として理解されるようになってきている。そこで社会福祉を理解するためには、ノーマライゼーションといった社会福祉が持つ固有の理念や原理原則、歴史的社会的形成過程、社会福祉の施策・政策の体系、更には社会福祉固有の課題等を理解する必要がある。これら社会福祉を概観することで社会福祉の基礎的な内容を理解し、社会福祉に携わる者としての職業観・勤労観を養うことを目的とする。	
	社会福祉原論 (社会福祉行財政)	我が国の社会福祉は日本国憲法第25条でみられるように、国民の最低生活維持のための国家責任が規定されている。したがって、社会福祉の実施体制を理解するための社会福祉の法制度や社会福祉行政体系、社会福祉の財政を学ぶ。さらに、社会福祉は多くの専門職が担っている。そこで、社会福祉を担う代表的な専門職である社会福祉士や介護福祉士などの諸資格の内容を概観することで社会福祉の専門性について理解する。	
	社会保障論 (社会保障制度)	わが国における近年の社会保障は変革が著しく、国民生活に大きな影響を与えている。社会保障の歴史的展開を理解するとともに、国民の生活を保障するためにわが国ではどのような社会保障制度があるのかを具体的な制度から理解することを目的とする。わが国の社会保障制度についての基礎的知識を習得するとともに、現行制度の問題点や改革のポイントを考える。	
	社会保障論 (医療・介護保険制度等)	現在わが国において、社会保障をめぐる議論は、高齢化の急速な進展、経済構造の変革といった状況の中で、活発になっている。年金、医療費の負担、介護保険制度など国民生活の安全・安心をどう確立するかが問われている。社会保障を個別分野の縦割りの論じられても全体のビジョンは見えてこない。国民の長期的な生活設計の中に位置づけるとともに、グローバルな視点をもって考える。	
	社会福祉発達史	日本の社会福祉は戦後GHQの政策により急速に発達したが、起源は古代から行われている慈善や相互扶助まで遡ることができる。また、16世紀以降のイギリスによるエリザベス救貧法や新救貧法からベバリッジ報告に至る貧困対策や、アメリカの社会保障政策やソーシャルワークの技法は日本の社会福祉の発達に大きく影響を与えている。このような社会福祉の発達経過を概観し、社会福祉の今日的な意義を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎領域     専門教育科目   方法・技術	社会福祉法制	社会福祉に関する基本的な法制度，社会福祉の概要や社会福祉の各分野における社会福祉施設，福祉サービスなどに関する知識を習得させ，社会福祉の現状を理解させるとともに，社会福祉サービスの向上を図る能力と態度を育てる。その内容として，社会福祉の基盤としての法制度と社会福祉サービス，高齢者福祉と社会福祉サービス，障害者福祉と社会福祉サービス，児童家庭福祉と社会福祉サービス，社会保険制度，社会福祉行政組織及び社会福祉施設などがある。	
	社会福祉概説	現代社会における社会構造の変容や経済の動向などとの関連で，社会福祉行財政の歴史的な変化並びに現在及び近未来の現状と課題を理解させ，社会福祉に対する幅広い視野と福祉観を養う。その内容としては，社会福祉行政の組織とその財源，社会福祉法人等の福祉サービス提供者，サービスの利用者，この三者の関係等を個別，具体的に取り上げて，その現状を理解させ，社会福祉の向上に寄与する能力と積極的な態度を育成する。	
	介護概論	介護の概念・定義・役割・目的・歴史的背景等を学び，その対象者および活動の場についての理解を深める。また，介護保険制度の学習を通じて，現代の社会福祉制度・政策の理解につとめ，特に，高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉と介護活動の関連性を学ぶ。さらに，介護の専門職および関連する専門職についての学習を通じてその職業観・倫理観・求められる資質の理解につとめ，加えて，ごく基本的・初歩的な介護技術を学ぶことを目的とする。	
	情報科学	情報の理論や情報を活用する手法および情報化が社会に及ぼす影響について学び，情報化モラルの問題についても言及する。 1．情報に関する知識と技術の紹介 2．情報の理論や情報を活用する手法 3．情報の捉え方，伝え方，社会に及ぼす影響など情報化と社会について 4．今後の情報科学のあり方 5．プログラムや画像に関する著作権等の知的所有権について 6．情報モラル（ネットワーク使用上のエチケットなど）	
	社会福祉援助技術論 A (援助技法体系)	援助者と利用者との間で展開される社会福祉援助技術は極めて人間的なサービス活動であり，その活動の根底には社会福祉の基本的な理念はもちろんのこと，深い洞察力や人間観，社会福祉援助に関する専門的な知識や技術の理解が要求される。ここでは，社会福祉の概念と社会福祉援助の意義を概観するとともに，社会福祉援助活動を支える社会福祉専門職の役割，社会福祉援助技術の体系について学習する。	
	社会福祉援助技術論 B (直接援助技法)	社会福祉援助技術は様々な援助技術の総称であるが，個別援助技術と集団援助技術からなる直接援助技術は社会福祉援助技術の中でも中心的な援助技術であるといえる。更に，直接援助技術は今日の社会福祉援助技術の基盤を形成するのに大きく貢献している。したがって，直接援助技術の発展経緯や歴史的な意義を学習することで，社会福祉援助の基本原則・原則および社会福祉援助に共通する技術を理解する。	
	社会福祉援助技術論 A (三大援助技法)	多くの援助技法の中でも個別援助技術，集団援助技術，地域援助技術は，社会福祉援助技術の三大援助技法と呼ばれる。ここでは，これらの援助技術の意義や内容，構成要素について学習する。さらに，それぞれの援助の展開過程を具体的に学習し，社会福祉援助を行ううえでの理論と技術の体系化を図ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	社会福祉援助技術論 B (間接援助技法)	ここでは間接援助技術である社会福祉調査法, 社会福祉計画, 社会福祉運営管理, 社会活動法および, 関連援助技術であるネットワーク, ケアマネジメント, スーパービジョン, コンサルテーション, カウンセリングの技法について学習する。また, 社会福祉援助技術の適用領域と対象分野を学習することで, 社会福祉援助技術を総合的かつ体系的に理解することを目的とする。	
	精神保健福祉 援助技術各論 (精神障害者の 生活援助法)	精神障害者の疾病および障害を考慮した上での生活援助に必要な, ソーシャルケースワーク(個別援助技術), ソーシャルグループワーク(集団援助技術), コミュニティワーク(地域援助技術)についての総合的な理解を目指し, 加えて, それらの技術における精神保健福祉士(PSW=サイキアトリックソーシャルワーカー)の役割・業務内容についての知識および実際の技術等を身につけ, さらには, 障害者の家族に対する援助や関係機関の職員との連携について学ぶ。	
	精神保健福祉 援助技術各論 (精神障害者の 生活援助の実際)	本講義は, 精神保健援助技術各論 で学んだ内容をより深く専門的に学習し, 精神保健福祉援助実習に備えることを目的とする。具体的には, ケースワーク(個別援助技術)の実際と適用分野およびスーパービジョン グループワーク(集団援助技術)の実際と適用分野およびスーパービジョン コミュニティワーク(地域援助技術)の実際と適用分野およびスーパービジョン 精神障害者のケアマネジメント チーム医療における精神保健福祉士の役割など。	
	ケアマネジメント論	高齢者や障害者が, 自らの意思で, 自立した生活を確立することが求められている。こうした住民のニーズに答えるためには, 従来のサービスを主体とする考え方から, 住民のニーズを主体とした援助方法が求められている。本講義では, ケアマネジメントについての概念や方法を教授し, 高齢者や障害者, その他福祉ニーズを持つ人々が自立した生活を確立するための援助方法を習得することを目的とするものである。	
	カウンセリング	臨床心理学の理論を幅広く紹介し, その中でカウンセリングの理論と実践について基本的な事柄を理解させる。心理臨床面接の実際の中でのカウンセリング実践について理論的に深く考えさせるとともに, 援助的人間関係の構築に向けたところの伝え方や表現の仕方を考えさせる。具体的には共感的な応答法, 積極的な傾聴, 質問の利用, 会話の方向づけなどの技法を習得させる。なお, カウンセラーとしての人となり, 倫理観などについても講義中に触れておく。	
	レクリエーション 活動援助法	現代の社会課題からレクリエーションの果たす役割を理解し, 援助するための基礎理論を学ぶ。具体的には, 暮らしを豊かにする楽しみの場を提供するというレクリエーションの特色を生かした支援のための方法論を身に付ける。 また, 組織としてのレクリエーションの各協会等の事業や役割を理解し, 市民にとって魅力ある事業を行うための企画や運営の仕方について具体的に学ぶ。	
	レクリエーション 活動援助法 (レクリエーション 活動の実際)	本科目では, まず, レクリエーション活動の支援者として, 相手が心地よさを感じられるための方法や表現力を磨く「ホスピタリティトレーニング」や, 人と人を和やかにつなぐ方法の「アイスプレーキング」などの『コミュニケーションワーク』の実技を行う。また, 各種ゲームをはじめ, 様々な『レクリエーション種目の実際』を学び, 体験することによって, 支援者としてそれぞれを指導できる技術を身につけると共に, 総合的な活動を計画・実行できる力を養うことを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
方法・技術	社会福祉調査論	社会福祉調査は、社会福祉に必要な福祉ニーズの発見・測定やサービスの効果測定などのために行われる科学的、実証的な調査である。授業では、社会福祉調査の歴史的展開、調査手法の特質、ニーズの測定、調査と人権の関わりなどを学習する中で、社会福祉調査を行うのに必要な基本的視点、知識、技術の習得を目指す。	
	社会福祉計画論	国や地方自治体によってさまざまな福祉計画が策定されている。社会福祉に対する住民の多様化したニーズに有効に対処するためには、地域の中で福祉サービスが総合的に提供されるように、短期、中長期の計画作りが求められる。講義では、近年の福祉計画の動向をはじめ、社会福祉計画策定の理念、社会福祉計画の考え方および基本事項を学習するとともに、社会計画と福祉計画の関連、計画やプログラムの策定、計画評価の手法などについても学習する。	
専門教育科目	児童・家庭福祉論 (概論)	1. 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、児童・家庭福祉の社会的背景について学ぶ。 2. 現代社会における児童・家庭福祉の理念と意義について学ぶ。 3. 児童・家庭の福祉需要の把握方法について学ぶ。 4. 児童・家庭福祉に関する法とサービスの体系について学ぶ。	
		1. 民間サービスの社会的意味とその現状について学ぶ。 2. 児童・家庭福祉及び関連分野の専門職及びその連携について学ぶ。 3. 児童・家族に対する相談援助活動について学ぶ。 4. 児童を取り巻く環境について、具体的事例を検証し、今後の課題について学ぶ。	
	障害者福祉論 (概論)	障害者の福祉を考えていくうえで、障害や障害を持つ人々をどのように捉えて考えるかは重要な課題であり、WHO(世界保健機関)の提唱する国際障害分類や障害者関連各法を基底として障害者の概念を学習する。更に、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉に関わる理念を学習するとともに、障害者やその家族の現状についての理解を深めることを目的とする。	
	障害者福祉論 (各論及び相談援助)	わが国の障害者福祉政策は、その対象別に身体障害者、知的障害者、精神障害者に大別される。それぞれの障害者が持つニーズは多様化・複雑化しており、今日なおその傾向は強まっている。したがって、これらのニーズを充足するための障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法などの障害者福祉制度体系を学習するとともに、実際の障害者の生活を支える住宅及び施設サービスの具体的内容を把握する。	
	老人福祉論 (概論)	高齢者を取り巻く問題は、単に高齢化の進展のみに根拠を有するものではない。高齢者を取り巻く社会的状況の変化や、高齢者自身の身体的・精神的特徴などが複合的に絡み合うことで今日の高齢者を取り巻く問題が発生しているのである。高齢者の現状や背景、そして高齢者の身体的・精神的特徴および社会的側面を通して、高齢者福祉について学ぶとともに、高齢者福祉に関する理念と意義について学習する。	
	老人福祉論 (各論及び支援の方法)	わが国の高齢者に対する対策は、老人福祉法や介護保険法、老人保健法などの法制度を根拠とした施策によるフォーマルな高齢者福祉サービスと、民間活力を資源とするインフォーマルな高齢者福祉サービスに大別することができる。高齢者福祉に関する法制度を学習し、更にインフォーマルな部分を含めた高齢者福祉サービスの全体像を把握することで、高齢者福祉の現状や今後の高齢者福祉施策のあり方について学習することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 分野	地域福祉論	本講義は、社会福祉における地域社会の役割や意義を理解し、地域福祉の実践的な取り組みや活動を幅広く学習することにより、地域住民の福祉を見据えた街づくりのために必要な対策や課題を考えることを目的とする。具体的には、地域福祉発達の歴史的背景や理念について、地域福祉に取り組む機関・団体(社会福祉協議会等)の活動について、住民参加型福祉活動について、ボランティア活動について、コミュニティケアシステムの構築についてなど。	
		公的扶助論	従来の社会福祉政策は貧困者対策を中心に展開されてきたという経緯から、社会福祉と貧困問題は密接な関係にあるといえる。さらに、現代的社会福祉を規定する要因となる日本国憲法第25条の生存権を如実に反映する制度として生活保護制度が位置付けられる。ここでは生活保護制度の原理原則や生活保護法の内容および実施体制を学習し、生活保護制度を主とする公的扶助の意義や内容について理解することを目的とする。	
		医学一般 (人体の構造と機能)	社会福祉士、精神保健福祉士に必要な医学的内容を理解、習得することを目的とする。広範かつ専門的な医療が、臨床医学のどのような部門で行われているかを概説し、医学の基礎的知識として人体の構造や機能を理解させる。各論として先天性疾患、難病、特定疾患、感染症、高齢化に伴って増加する神経疾患、現代社会の代表的疾患である糖尿病、脳卒中、心疾患を含む生活習慣病等について、その対策を含めて学習する。	
		医学一般 (医療と福祉)	患者や高齢者から様々な相談を受け、助言・指導を行う職種を目指す者にとって、医学に関する基礎知識を持つことは不可欠である。医学一般 に引き続き、老化と高齢者の病気、精神障害および精神保健、リハビリテーション医療の概要、公衆衛生の現状、医療供給システム、保健医療対策の現状、関連のある医事法制、医療職種の種類と業務、チーム医療等について、必要な内容の理解を深め、福祉に取り組む姿勢を習得する。	
		精神医学 (精神症状と診断)	精神疾患は生来性に、あるいはある時期から異常な心理学的行動学的精神現象を呈するに至った状態であり、精神医学はこのような精神疾患の原因、症状、経過、治療、予後などについて研究する学問である。近年、精神医学には診断法や治療法の進歩が目立ち、それに伴ってわが国の精神医療やそれを取り巻く社会環境も大きく変化している。本講義では、精神医学で用いられる精神症状や状態像などを記述する専門用語についての正しい知識を習得し、精神科臨床における面接法、診断法、検査法および治療法について概説する。	
		精神医学 (精神疾患と治療)	精神医学 で得られた精神症状学の知識を基礎とし、個々の精神疾患(内因性精神疾患、心因性精神疾患、器質性精神疾患)の原因、症状、経過、治療、予後などについて詳細に学習する。さらに、他の身体医学との連携(リエゾン)、心身医学、臨床心理学、社会精神医学、司法精神医学など精神医学が応用されている分野についても学習し、将来精神保健福祉の分野における必要な知識を習得することを目的とする。	
		精神保健学 (予防精神保健学)	精神保健学は、現代社会で生活する際に生じる様々な精神医学的・心身医学的諸問題や不適応状態を扱う分野である。本講義では、精神保健の歴史について学び、幼児期から老年期までのライフサイクル別に、あるいは学校、家庭、職場などの生活場面別に、特徴的な精神医学的、心身医学的疾患について紹介し、何が不適応状態の危険因子となり、どのように回避したり予防できるのかなどの具体的な事項について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門分野	精神保健学 (実践精神保健学)	精神保健学 で習得した知識を基礎として、精神疾患と遺伝、ストレスと心身相関のメカニズムなどの国内外の基礎的研究を紹介する他に、自殺、犯罪、離婚などの不適応行動や精神障害者に対する偏見などさまざまな社会問題についても検討する。さらに精神保健福祉行政、精神保健福祉法、精神保健福祉士の役割や業務について習得し、現代社会の要望に応え得る精神保健学の修得を目指す。	
	精神科 リハビリテーション学 (総論)	精神疾患に罹患した患者の一部は、慢性に経過し、さまざまな機能的および器質的障害を残す。精神科リハビリテーションとは、機能的能力が可能な限り最高のレベルに達するように、医学的・社会的・教育的・職業的手段で障害者を訓練あるいは再訓練することである。すなわち精神科リハビリテーションの標的は症状ではなく障害である点で、従来の精神医学の目的とは異なる。わが国や諸外国の精神科リハビリテーションの現状について知り、精神科リハビリテーションの意義、構成、基本原則について概説する。	
	精神科 リハビリテーション学 (各論)	精神症状の評価、社会生活の評価、生活技能の評価など精神科リハビリテーションの現場に必要な障害の評価方法の他、集団精神療法、リクレーション療法、作業療法、生活技能訓練、行動療法、心理教育的家族療法、住居訓練、就労援助と職業リハビリテーションなどのさまざまな支援技法について習得する。さらに精神科救急医療、身体合併症医療などの関連領域についても学習し、精神保健福祉分野の要望に応え得るリハビリテーション学の習得を目指す。	
	精神保健福祉論 (概論)	本講義では、主としてわが国における精神障害者に対する福祉制度の総合的理解を目的とする。内容は 精神障害者の処遇の歴史について 精神医療と福祉について 障害者福祉と精神保健福祉との関連について 精神障害者の福祉ニーズについて 精神保健福祉専門職の機能・役割について 精神障害者の家族に対する支援体制について 精神障害者に関する法律および関連施策についてなどの概説を行う。	
	精神保健福祉論 (各論及び援助活動)	本講義では、精神保健福祉論 に関連した内容をより詳しく学習することを目的とする。内容は、 ノーマライゼーションやリハビリテーションなど障害者福祉の理念と精神障害者について 障害の概念・分類と精神障害について 精神障害者の人権について 精神保健福祉士の役割・専門性について 精神障害者に対する相談援助活動について 精神保健福祉法の意義と内容についてなどを教授する。	
	精神保健福祉論 (精神保健福祉施策)	本講義では、主として精神保健福祉施策、およびその関連施策の概要を学習することを目的とする。具体的には 精神保健福祉行政について 精神保健福祉に関する行政組織について 精神保健福祉に関わる公的負担制度 精神保健福祉施策の課題 社会復帰施策(精神障害者のリハビリテーション)について 精神障害者の保健福祉に関わる専門職との連携について 精神保健福祉の関連施策(雇用・就労、所得保障、経済負担の軽減など)について	
	福祉法学	確かに家族は、第一次的な福祉(幸福=well-being)追求の集団ではあるが、現状では限度がある。日本の「家族介護力」の弱体化の進行に対して抜本的な対策が要請されている。例えば、生活保護の支給や介護保険の実施は全て行政の仕事である。これらの行政に関する法律、即ち行政法には、実のところ共通の法原理が存在しており、それを学ぶことができれば、行政の仕組みが理解できる。そこで、行政行為と行政手続、行政救済三法、地方行政組織等の学習を通して、変容する21世紀の行政の仕組みを明らかにしたい。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 分野	医療福祉論	<p>社会福祉援助技術を実践する主要な場の一つに医療機関が挙げられる。ここでの実践者は一般にMSWと呼ばれ、社会福祉施設や行政機関とは異なった援助内容が要求される。主には入院患者やその家族に対する退院時援助や医療費に関する相談援助となり、医療機関独自の援助が展開されている。したがって、ここでは医療機関と社会福祉を関連させながら学習することで、医療機関における援助の独自性を理解することを目的とする。</p>	
		家族社会学	<p>人間が、社会生活を営む場合の重要な基礎集団の一つが「家族」である。社会構造の変化(例、封建社会・近代社会・現代社会)に対応して、また、農業社会・商業社会・工業社会等の社会機能の変化に対して、大家族制度・親族(同族)組織・近代家族・現代家族形態などへの変化が見られる。</p> <p>それぞれの家族形態における家族の人間関係・家庭の役割や機能を考察しながら、その時代の社会現象と家族の役割の関連性を共に学んでいきたい。</p> <p>ことに、現代社会において必然的に生じた核家族(夫婦とその子)の人間関係における「夫婦愛・親子愛」や役割・人格的成長・協力の大切さをも確認する。と同時に、高齢化社会における重要な老人家族(老人問題)を、現代社会構造と共に考察する。</p>	
		家族関係学概論	<p>人間生活の基本に「家庭生活」があり、最も身近な人間関係として「家族問題」がある。家庭とは何か、家族とは何か。その基本的特徴を考察しつつ、家族・家庭の役割と機能について分析する。</p> <p>具体的には、婚姻(家族)への過程・婚姻の設立・婚姻の効力。そして離婚原因・離婚の方法。さらに、親(父母)とは、親権(養育義務の大切さ)の内容、子の種類、嫡出子・非嫡出子・養子制度(普通養子と特別養子)・人工授精子(代理妻)・里子制度、子どもの人権を学ぶ。</p> <p>さらに、家族福祉・私的扶養と公的扶養との関係を現代的視点から取り上げつつ、家族崩壊現象と家庭の再構築の重要性を考察する。</p> <p>「人間を救う最後の場は家庭である」でまとめる。</p>	
		家庭経営学概論	<p>家庭経営学は、家庭経済、家族関係、家庭管理を含めた内容の中で、家庭経済の収支の分析や家族間の人間関係、個人の生活時間を学ぶことを目的とする。家庭経営は家庭生活の経営と管理の科学であり、新しい時代の家計管理、家族それぞれの個計、生活時間、家事労働、疲労(ストレス)について把握することも大切である。家事の社会化については、小家族化に伴っての高齢者家庭、共働き家庭の社会援助システムとして、必要かつ重要な問題である。同時に21世紀は環境の時代とも云われているが、資源、環境面から家庭経営のあり方を探求したい。</p>	
		発達心理学	<p>人間の発達を人は生涯にわたって変化するという生涯発達の観点から捉え、その変化の過程を人生移行という概念で整理し、標準的な人間発達の様相を明らかにする。さらに、出生から死亡までの人生をいくつかの時期に分け、各時期における特色を自己の確立及び他者との関係の形成という二つの視点から分析する。その際、各時期において生じる人生上の危機について詳述し、豊かで幸せな人生を送る知恵とスキルについても考察を加えたい。</p>	
		臨床心理学	<p>人はなぜ自ら悩み苦しみ、あるいは他者を傷つけ苦しませることをするのか。この人間存在の根源にもかかわる問題について、病理・不適応・逸脱の観点から分析を行う。その際、伝統的な臨床心理学の理論に加えて、周辺領域の最新の知見も考慮に入れながら論を進めたい。また、臨床心理学の実践的な性格に照らして、心理査定・心理面接を中心とした具体的な領域の基礎的知識の伝達を行いたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門分野	保健福祉論	介護保険制度に見られるように、保健・医療・福祉の連携の充実今日の社会福祉を効果的に展開していくうえでの重要課題であるといえる。ここでは、保健分野の活動の拠点となる保健所等が行う健康診断や、老人保健、精神障害者福祉における活動内容を学習することで、地域保健活動と社会福祉諸活動の接点を見出し、連携のあり方やその必要性について理解することを目的とする。	
	養護原理	本講義は「家庭養護」と「社会養護」との相互関連をふまえ、のぞましい児童養護のシステム化を構築するための学習を目的とするものである。具体的には、児童養護の原理・歴史、施設養護の体系と施設機能、児童のニーズと権利、児童養護を担う職員の資格と資質・その養成、児童養護施設を始めとする養護機能を持った施設の運営や管理、さらには地域社会の福祉と施設養護・家庭養護との関連などを平易に学ぶ。	
	看護学	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解し、日常生活の援助及び障害者や高齢者の看護に関する基礎的な知識と技術を習得し、適切な援助が行える能力と態度を養う。内容としては、看護の意義と役割(対象の理解、看護の意義、看護活動の分野)、健康の概念と医療制度、ライフサイクルの特徴と健康問題、看護実践の基本(看護過程、コミュニケーション、バイタルサイン、ボディメカニクス)、高齢者の看護と福祉、障害者の看護と福祉とする。	
	社会福祉総合研究 (共通科目研究)	(概要) 社会福祉士・精神社会福祉士として課せられる必須の諸科目のうち、共通科目(社会保障論・公的扶助論・社会福祉原論・地域福祉論・心理学・法学・社会学・医学一般)について教員の提起する最近起りつつあるトピックを受講生が考察し、教員はその問題解決に向けての手助けを提示する。  (オムニバス方式/全15回)  (A / 5回) 心理学・法学・社会学・医学一般を中心とする科目について、受講生と共に考察する。  (B / 5回) 社会保障論・公的扶助論を中心とする科目について、受講生と共に考察する。  (C / 5回) 社会福祉原論・地域福祉論を中心とする科目について、受講生と共に考察する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	社会福祉総合研究 (専門科目研究)	<p>(概要) 社会福祉士・精神保健福祉士として課せられる必須の諸科目のうち、専門科目(障害者福祉論・児童・家庭福祉論・老人福祉論・介護概論・社会福祉援助技術・精神医学・精神保健学・精神科リハビリテーション学・精神保健福祉論・精神保健福祉援助技術)について、教員の提起する近時生起しつつあるトピックを受講生が考察し、教員はその問題解決に向けての手助けを提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(A / 5回) 精神医学・精神保健学・精神科リハビリテーション学・精神保健福祉論を中心とする科目について、受講生と共に考察する。</p> <p>(B / 5回) 老人福祉論・介護概論・社会福祉援助技術・精神保健福祉援助技術を中心とする科目について、受講生と共に考察する。</p> <p>(C / 5回) 障害者福祉論・児童・家庭福祉論・社会福祉援助技術・精神保健福祉援助技術を中心とする科目について、受講生と共に考察する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	社会福祉援助技術演習 (コミュニケーション技法)	社会福祉援助技術は理論のみならず援助者が習得すべき技術が多くある。その中でも援助を行ううえでの基本となるのがコミュニケーションの技術である。さらにコミュニケーションを適切に行うためには、知識はもちろんのこと、コミュニケーションを展開していく援助者自身が自らの行動形態や感情のパターンを理解する自己覚知を習得する必要がある。ここでは、心理的分析などを通して、援助に必要な技法を習得することを目的とする。	
実習・演習	社会福祉援助技術演習 (様々な援助技法)	社会福祉援助の実践では様々な状況が想定され、援助者はその都度、社会福祉援助技術を駆使しながら適切に対応していかなければならない。ここでは、ケースワークやグループワーク等の技法をロールプレイ等によって体験し、振り返ることを繰り返すことで、社会福祉援助技術の技能を高め、社会福祉援助技術論で学習した理論を実践として体系化していくことを目的とする。	
実習・演習	社会福祉援助技術現場実習	<p>(概要) 社会福祉現場(指定施設及び事業)において、スーパービジョンを受けながら、社会福祉援助技術の実践力を養い、社会福祉専門職としての価値観や倫理観を身につけることを学ぶが、原則、実習生の選択により、児童福祉分野 障害・老人福祉分野 その他の分野の3分野別に分かれて現場実習を行う。</p> <p>(C / 180時間以上) 児童福祉分野担当 児童相談所、婦人相談所、児童福祉施設、婦人保護施設等</p> <p>(D / 180時間以上) 障害・老人福祉分野担当 身体障害者更生相談所、知的障害者、更生相談所、障害者福祉施設、老人福祉施設等</p> <p>(B / 180時間以上) その他の分野担当 福祉事務所、保護施設、市町村社会福祉協議会、一般病院等</p>	複数の教員が共同で担当

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会福祉援助技術現場実習指導	<p>(概要) 社会福祉実習の実習の位置づけや目的について学ぶ。社会福祉専門職の職業倫理について学ぶ。 実習前教育の内容を学ぶ。ア,実習先の現状や課題を調べる。イ,実習計画書を作成する。ウ,実習先への事務訪問をし,計画について打ち合わせをする。 実習の準備をする。ア,実習の心得を学ぶ。イ,援助技術(コミュニケーション)の方法を学ぶ。ウ,関係者との連携について学ぶ。 社会福祉実習の目的を確認する。</p> <p>(B / 15回) 社会福祉行政機関(福祉事務所等)や社会福祉法による事務所(市町村社会福祉協議会)及び一般病院等における実習を希望している学生に上記の概要にあげた指導他を行う。</p> <p>(C / 15回) 児童福祉法による児童福祉施設(児童養護施設,知的障害児施設等)における実習を希望している学生に,上記の概要にあげた指導他を行う。</p> <p>(D / 15回) 老人福祉施設,身体障害者福祉施設,知的障害者福祉施設における実習を希望している学生に,上記の概要にあげた指導他を行う。</p>	複数の教員が共同で担当
	精神保健福祉援助演習	<p>精神障害者に対する援助技術およびリハビリテーション技法が学生個人に身につくよう,精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして,個別指導ならびに集団指導の下で,学生自身が積極的に報告し,議論しあう形で事例研究およびロールプレイを行う。また,精神保健福祉士としての職業倫理や専門性,チーム医療についての知識など,精神保健福祉援助実習に備えての講義を行う。</p>	
	精神保健福祉援助実習	<p>(概要) 精神保健施設(主に精神科病棟)および,精神障害者社会復帰施設において,合計180時間以上,精神障害者の社会復帰等に関する相談援助業務を実習する。担当教員は,実習に必要な知識・技術・心構え等を担当学生に対し実習事前個別指導を行い,モチベーションを高めると同時に,実習施設との協働体制を構築するために,密な連絡・調整等に努める。</p> <p>(E / 180時間以上) 川内病院・城西病院での実習学生を担当し,実習依頼・学生照会・施設管理者および実習指導を担当する精神保健福祉士との協議を経て,実習初日に学生を引率し,実習導入を行う。その後,週2回の巡回指導を行い,実習終了時に施設内での反省会に参加し,実習学生とともに,施設管理者および実習指導担当の精神保健福祉士からの,評価・指導助言を受ける。実習終了後においては,学内での事後指導によって,学生の専門的な資質を高める指導を行う。</p> <p>(F / 180時間以上) 緑が丘病院・南海病院を担当。以下,上記に同じ。</p> <p>(G / 180時間以上) 田岡東病院・城南病院を担当。以下,上記に同じ。</p> <p>(H / 180時間以上) 第一病院・富田病院・藍里病院を担当。以下,上記に同じ。</p>	複数の教員が共同で担当

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部人間福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	実 習 ・ 演 習	介護技術演習	<p>社会福祉士がおこなう介護技術演習では、介護の技術の習得はもちろんのことであるが、技術をとおして人間理解を深めることに重点を置く。ヒトが「生活行動」ができなくなったとき、どのような「思い」や「願い」をヒトに託しているか、すなわち介護をされる側にたつことで、よりいっそう利用者を理解することができ、その上で利用者の立場に立った社会福祉士の専門性とは何か、職業観、倫理観、求められる資質について学ぶことを目的とする。</p>	
		社会福祉系演習	<p>(概要) 福祉(高齢・障害・家庭児童・介護)の各分野についてこれまで学んだことのまとめとして演習形式により再確認するとともに現状・今後の課題についても学ぶ。</p> <p>(D / 15回) 高齢・障害 高齢・障害高齢者と家族の抱える諸問題、介護保険制度の給付利用等、並びに障害者自立支援法による影響等を現場で捉え、どのように支援をし、解決していけばよいかを考え、議論する。</p> <p>(I / 15回) 介護 それぞれの対象に応じた援助を導き出す。個別的な問題解決に向け、科学的に思考し、判断し、意思決定するプロセスを追求する。</p> <p>(C / 15回) 家庭・児童 家庭・児童福祉の現状と課題を考える。今後のあるべき姿をKJ法等を用い討議しひとつのものとしてまとめる。</p>	複数の教員が 共同で担当
		精神保健福祉系演習	<p>(概要) 精神保健・精神医学・精神保健福祉の各分野についてこれまで学んだことのまとめとして演習形式により再確認するとともに現状と今後の課題について学ぶ。</p> <p>(F / 15回) 精神医学 代表的な精神障害の発症メカニズム、特徴的な症状や経過、治療方法、予後について、これまで学習してきたことを演習形式で議論し、精神科障害者に対する支援活動を追求する。</p> <p>(H / 15回) 精神保健福祉 精神障害者の置かれている状況およびそのニーズを再確認し、病院や社会復帰施設における生活支援および作業所などで働く人々の相談援助の内容・方法について学ぶ。相談・生活支援・就業支援のそれぞれについて議論し、まとめる。</p> <p>(E / 15回) 精神保健 ライフスタイルと生活の場を通じて精神保健に関する課題を実践的に検討し、併せて社会病理との関連性についても討議し、積極的な精神保健活動を追求する。</p>	複数の教員が 共同で担当



# 徳島文理大学人間福祉学部人間福祉学科 設置の趣旨

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1) 「人間福祉学科」設置までの経緯

本学は、昭和41年大学発足と同時に、「家庭生活の学」をめざして家政学部を創設し「家政学科」1学科を持つ学部として出発したが、その後、科学技術の急速な進歩に伴って社会構造が大きく変化し、価値観の多様化、環境の破壊、少子高齢化等さまざまな問題が派生してくる中で、社会の要請、受験生のニーズ等に応え、順次、学部を増設、現在、7学部を擁している。

家政学部は、平成13年時点で、家政学科(家政学専攻・管理栄養士専攻)、児童学科、生活環境情報学科、人間発達学科の4学科組織となっていたが、それらの教育研究の内容から「家庭生活の学」という枠を超え、「人間生活の学」とした方がふさわしい状況にあると考え、平成14年4月より「家政学部」を「人間生活学部」に名称を変更、同時に、家政学科家政学専攻を「人間生活学科」に、家政学科管理栄養士専攻を「食物栄養学科」に、生活環境情報学科を「生活情報学科」(平成18年4月より「メディアデザイン学科」)と「住居学科」に、それぞれ改組転換した。なお、人間発達学科については、平成15年4月より「心理学科」に変更している。

二十世紀後半以降、世界的に人口が激増する中で、我が国の医療技術の進歩等による平均寿命の伸びや出生率の低下から生じた少子高齢化社会の急速化、それに伴う独居老人や要介護老人、障害者、子ども等をめぐるさまざまな問題の解決が当面の課題となった。こうした問題は、基本的には人々の意識や社会構造にかかわる事柄で、その解決のためには政治・経済・法律等、社会のあらゆる分野において取り組む必要があるが、当面緊急の課題としては、こうした高齢者や障害者など福祉ニーズを必要とする人たちが、容易に、かつ、安心して相談や助言・指導を受けられることができる体制を整えることであると考えられる。そのためには、何よりもまず専門的な知識や技術をもった人材を養成する必要があるとともに、「福祉」について教育研究することが不可欠であると考え、平成15年4月、「人間福祉学科」を設置した。

### (2) 「人間福祉学部人間福祉学科」の創設

近年、社会構造の変化や社会組織の複雑化はますます進行し、私たちを取り巻く社会的環境にも大きな変化が生じてきている。福祉の領域に関しても、人間生活全体の体系の中で、健康管理も含む総合的な研究及び援助が求められるようになって来おり、人間の健康と福祉の分野について、より深い、独自性を持った体系を構築する必要が生じていると考える。

そこで、福祉の基本理念と方法論、福祉制度や政策の検証に加えて、福祉現場での体験・実習をとおして実践的な知識と技術の教育研究を深め、様々なニーズに応えら

れる学問体系を構築し、機動性を持った体制とするため、人間福祉学科を「人間生活学部」から独立させ、新に「人間福祉学部」を設置する。

### (3)養成する人材

徳島県の高齢化率は、国勢調査によると、平成17年10月現在24.4%で、全国8位の高率にあり、「平成18年度版厚生白書」には、徳島県は2025年に高齢化率30%を超えるといわれている。

一方、徳島県内の「社会福祉士」「精神保健福祉士」の登録者数、国家試験の合格者数は、全国都道府県の中でも少ない県のひとつに数えられるという状況である。

このような状況の下、これまでの教育研究の成果を生かし、社会福祉の制度、技術、実践の在り方、援助の方法など幅広い知識を備えた「社会福祉士」「精神保健福祉士」を養成することは、地域に密着した本学の使命であると考えている。

また、高等学校において、「福祉」の教科が新しく設けられているが、学生の希望によって、「高1種免(福祉)」の免許状を取得し、教育の面で福祉社会の充実に貢献できる人材の養成に、引き続き努力していきたいと考えている。

## 2 学部、学科等の特色

「社会福祉士」について、「社会福祉士及び介護福祉士法」では、「身体上もしくは精神上の障害がある者、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者に対し、専門的な知識・技術をもって、福祉に関する相談に応じ、助言・指導・その他の援助を行うこと」と定められているが、その職務内容は、福祉に関するさまざまな相談にのり、援助を行うことにある。そうした相談・援助は極めて複雑多岐にわたることが予想され、職務遂行のためには、豊かな人間性の上に、福祉に関する知識・技術を身につけ、援助を必要とする人の立場に立ち、その状況を理解するための人権感覚、倫理観、コミュニケーション能力が何よりも必要と考えられる。

「精神保健福祉士」は、精神に障害のある人の社会復帰を援助し、その家族を支援することが、その職務であり、従って「社会福祉士」と同様に、福祉に関する知識・技能や人権感覚、倫理観、コミュニケーション能力等が求められるのは当然であるが、更に、精神の障害はさまざまその原因は一人一人異なるといわれており、「精神保健福祉士」には、ある程度の医学的知識が必要である。

したがって、保健・医療・福祉の分野の専門性を高め、高齢者、障害者、児童、生活困窮者などが安心して暮らせるようにサポートする専門職の養成を図るとともに、社会福祉の理論や制度を知り、課題の発見や問題解決能力を身につけ、援助の実践を学び、行動力を備え、新しい時代の要請に積極的に応えられる幅広い視野と専門性を備えた人材の養成を図る学部・学科とする。

### 3 学部、学科等の名称及び学位の名称

#### (1) 学部、学科の名称

学部、学科の名称は、学科の目的、教育研究の内容を端的に表すものとして、「人間福祉学部人間福祉学科」とする。

#### (2) 学位に付記する専攻分野の名称

学位に付記する専攻分野の名称は、「社会福祉学」とする。

#### (3) 学部学科及び学位の英訳名称

学部の英訳名称：Faculty of Human Welfare

学科の英訳名称：Department of Human Welfare

学位の英訳名称：Bachelor of Social Welfare